

# ほたる

## 祝30周年

### 持続可能な地域へ

中ノ郷地区設立30周年、誠におめでと  
うございます。

鳥取県三大霊山に数えられる摩尼山の麓にあたる覚寺と円護寺のちようど真ん中に、北園ニュータウンが造成されたのが平成初期。時はバブル最盛期で、一気に戸建住宅が建ち並び、中ノ郷小学校の再創立と歩調を合わせて中ノ郷地区が誕生しました。

ゼロから1を創り上げるご苦労は、準備期間を含めて並大抵ではなかったと推察します。自治会や社協・体育会等の各種団体の設立、地区事業の立ち上げなど『誰もが仲良く安心して暮らせて、活気ある地区を創ろう』と、知恵を絞り汗を流して頂いたおかげで『今』があります。

田舎アルアルでヨソ者を敬遠する風潮が散見されますが、中ノ郷は全くありませんでした。北園1丁目に私が転居したのが平成6年。いわゆる地区デビューは長女が小学校に入りPTA役員を任せられた平成13年からでした。

「あんなに若いモンがこれから引つ張るんだで。古いモンは黙って応援するけえ、思い付いたら、やったらええで」公民館での集いや地区事業の折りに触れ背中をドーンと押す温かい励まし言葉をかけて頂いたことを覚えています。



中ノ郷ふるさとづくり協議会  
会長 福浜 隆宏

当時、御尽力頂いた方の中には、今もお元気で活躍されている方も大勢いらっしゃる一方で、永眠された方も少なくありません。心からの敬意と感謝を申し上げます。コロナ禍に見舞われて、3年間で中止を余儀なくされた地区5大事業でしたが、今年30周年の冠を付けて、運動会・納涼まつり・傘踊り・敬老会・中ノ郷まつりを開催する事が叶いました。関係者の御尽力のおかげで、コロナ禍以前にも増して賑わいと笑顔を創出できたことが心から嬉しく、また感謝申し上げます。

30年は世代交代の節目と言われるように社会も変容し、価値観の多様化・仕事と家庭の両立が重視されています。地域づくりも同様に、年々高齢化していく中、役員の負担軽減を図りながら、地域に暮らす人の安心や絆、活気を持続可能にするバランスが求められています。

こうした中において最も大切にしたいのは『1人も取り残さない地域』をいかに創っていくのか？決して平坦な道ではないことは承知していますが、中ノ郷地区にお住まいの皆さまの総力を結集して前に進めていきたいと思っております。どうかお力添えをお願い申し上げます。一緒に明るい未来を創ってまいりますように。

## 中ノ郷

### ふるさとづくり

#### 協議会

#### 令和6年度役員

会長

福浜 隆宏

副会長

田中 規靖  
濱田 英紀

事務局長

矢部 敏昭

監事

高田 治美  
赤松 崇志

会計

中嶋 真理

総務広報部会

田中 初博

環境美化部会

小川 博文

伝統文化部会

大島 徳明

健康福祉部会

家納 博江

世代交流部会

石田 達也

# 30周年記念

## 中ノ郷小学校地区運動会を開催しました

実行委員長 石田 達也

中ノ郷小学校地区運動会を5月19日に開催しました。今年で30周年の記念する大会で児童の皆さんをはじめ選手の皆さんが一生懸命に競技する姿を見ることが出来ました。地区種目として、幼児のかわいい旗取り、ミニマラソン、ラムネのイッキ飲み、地区対抗種目は、人間ハムスター、綱引き、対抗リレーで競っていただき覚寺口が総合優勝しました。

当日は曇り空で最高気温22度と熱中症の心配はありませんでしたが、時より突風が吹き、テントが飛ばされないように置くシーンもありました。その中、各町内会でチームワークを最大限発揮されて、白熱するシーンをたくさん見ることが出来ました。直前まで選手集めで各町内体育役員の皆さんがご苦労されていましたが、子ども達の元気で大きな声援を受け競技する選手皆さんの素敵な笑顔を見ることが出来ました。体育役員の皆さんのご努力に感謝申し上げます。

また、この場をお借りして、運動会前に小学校周辺の草刈りや準備をして頂いた地域の方々、並びにPTAの皆さんや先生方のご尽力に、深く敬意と感謝の意を表します。ありがとうございました。





### 第30回中ノ郷地区納涼まつり

実行委員長 福浜 隆宏

地区創設30周年の節目の年。納涼まつり担当の世代交流部会では「花火を30発」「お楽しみ抽選会」等々の案が出ました。経費節減を図るため、コロナ禍以前から音響機材(20万円)と催事機材(10万円)のレンタルを取り止め、音響は小学校機材活用、催事機材は市社会福祉協議会から借りるなど、切り詰めを行ってきました。

ところが、物価高騰の余波は深刻で、花火費は2倍に。パンフレット印刷費も1.8倍に。加えて小学校音響機材も劣化により、ミキサー・アンプを購入(中古品12万円余)する必要に迫られるなど、極めて厳しい財政事情を抱えながら運営に当たったのが実態でした。『出来る限り安価で提供』が本意でありながら、食材費も高騰の折、焼きソバや元氣丼など一部単価を値上げせざるを得なかったのはこうした要因があつたことでした。

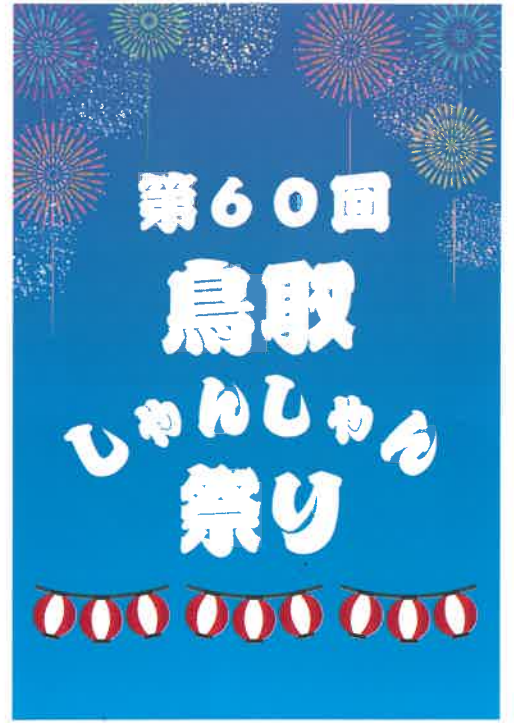
フタを開けてみると、一部値上げによる売上減は全くなく早々完売。抽選会の景品を、健康志向や生活必需品を中心にラ

インナップした効果で、年配の方にも多数お越しいただけました。結局、花火は18発に抑えざるを得ませんでした。『綺麗だったね』という声が多く聴かれ安堵した次第です。また昨年度の反省から、『受付を2力所に増やした』のも好評で、混乱なくお楽しみいただけたと振り返っています。

今回、猛暑の中、コロナ禍前と同様の賑わいを復活できたのは、町内会・各種団体の皆さまの誠心誠意の御尽力の賜物で、心の底から御礼を申し上げたいと思います。

一方で近年、役員敬遠や高齢を理由に、町内会を離脱されるご家庭が少なからず見られるようになりました。役員の負担軽減を図りながら、地区事業の持続可能な方向性を見いだす必要性を痛感させられた30周年でもありました。過去に囚われず、今の時代に合った地区事業の在り方に向け、多くの方々の声に耳を傾けながら新たな形を模索するスタートにしたいと考えています。





## 第59回鳥取しゃんしゃん祭り 一斉傘踊りに参加して

実行委員長 大島 徳明

第60回の節目となります今年も鳥取しゃんしゃん祭りですが、中ノ郷地区としても中ノ郷小学校創立30周年、中ノ郷地区自治会発足30周年と節目の年が重なり、何かの縁を感じる思いがいたします。

25回目の参加となります今年も小学生16名、高校生5名、大人4名の合計25名と例年に比べて少ない人数での参加となりましたが、7月上旬から開始した合計10回の練習に真剣に取り組み、例年までの中ノ郷連と遜色ないぐらい踊りもかなり上達しました。

迎えた本番8月14日、午後6時30分に一斉傘踊りがスタート。今年の中ノ郷連は鳥取駅前から若桜街道をかけたの観客の多い華やかな場所での踊りとなり、青いはつぴを着た踊り子は練習の成果を十分に発揮し、傘も大きく回って元氣あふれる素晴らしい傘踊りを多くの観客に披露することができました。午後9時の傘踊りが終了した時には子どもたちの笑顔と充実感であふれていました。暑い中、最後まで踊りきったこの経験は子どもたちにとって心に残る一生の宝物になったと思います。

最後に、練習から一斉傘踊り本番まで中ノ郷連に対し多大なるサポートをしていただきました中ノ郷地区の皆さまに心より感謝申し上げます。

### 編集後記

今年度の地区事業も順調に開催されています。特に猛暑の中でのしゃんしゃん祭り参加は心配しましたが、無事終えることができホッとしました。関係者のみなさまのご努力に感謝します。引き続き地区事業を皆で楽しみましょう。(H.T.)